

# Daily Report (号外)

## ～26日の米国株式市場の急落について～

### 概要

26日の米国株式市場は約1ヶ月ぶりの大幅安となりました。新型コロナウイルスの米国における新規感染者数が過去最高となり、景気回復が遅れるとの警戒感が強まったことに加え、追加経済対策の合意期待が後退したことも重石となりました。米ジョンズ・ホプキンス大の集計では、新型コロナウイルスの米国1日あたりの感染者数は23～24日に8万人を超え、過去最高を更新したと発表されました。感染者数の増加ペースが拡大しており、経済活動の再開を阻害するとの懸念が強まりました。欧州でも新型コロナウイルスの感染者数が拡大しており、フランスでは1日当たりの感染者数が5万人を超えたほか、スペインでは非常事態宣言が出されるなど感染第2波が広がっていることも市場の重石となりました。また、米与野党での合意が遅れている新型コロナウイルスに対する追加経済対策について、米民主党のペロシ下院議長とムニューシン財務長官が26日に電話協議を行いました。合意に至らなかったことを受け、米大統領選前までの成立が困難との見方が広がり、経済対策に対する期待が後退しました。

### 市場の反応

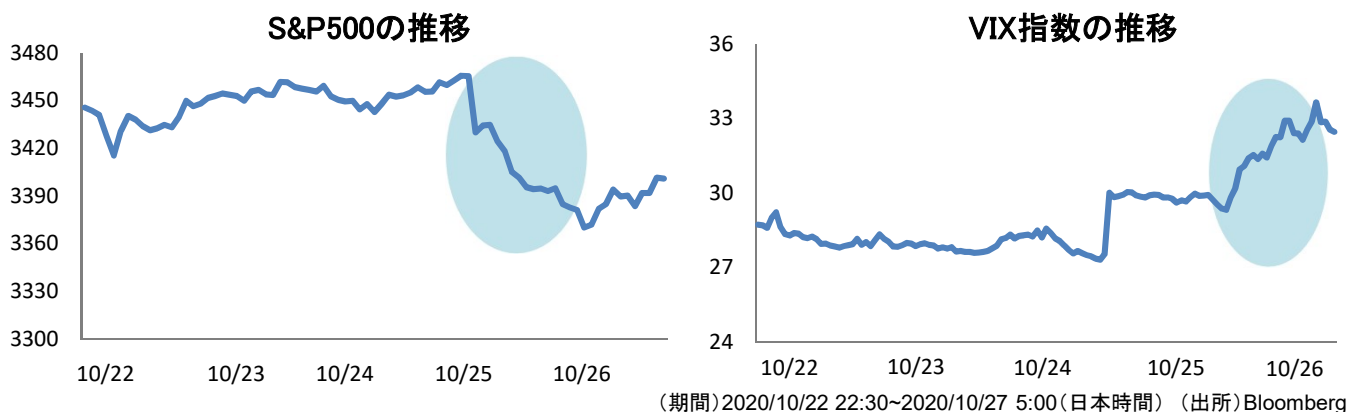
26日の米国株式市場は大幅下落しました。NYダウ平均は新型コロナウイルスの感染再拡大で世界経済に打撃が及ぶとの警戒が広がったほか、大統領選前に追加経済対策が成立するとの期待が後退したことを受け、前日比650ドル19セント(▲2.29%)安の27,685ドル38セントで終わりました。その他主要指数も大幅下落し、S&P500は前日比▲1.86%、ナスダック総合は同▲1.64%といずれの指数も大幅下落となりました。

S&P500業種別ではエネルギーが▲3.46%、資本財が▲2.50%と大幅に下落しました。個別銘柄では航空機製造のボーイングや建機製造のキャタピラーなど景気変動の影響を受けやすい銘柄への売りが目立ちました。

VIX指数も32.46ポイントと急騰し、警戒水準となる30ポイントを9月初旬以来初めて越えました。

米国10年債利回りは景気減速懸念から買いが優勢となり、10年金利は0.80%(前日比▲0.04%)で引けました。

原油先物市場も景気懸念に伴う原油需要の減退を警戒した売りが優勢となり、WTI原油先物は前日比▲3.24%の1バレル38.56ドルで取引を終えました。



# Daily Report(号外)

## 評価及び今後の見通し

米国の株式市場は、欧米で新型コロナウイルス感染者数の拡大が続いていることや、米国で新型コロナウイルス対策を巡る追加経済対策の合意が遅れていることが、景気回復ペースの鈍化懸念となり市場の重石となるが見込まれます。また、米国の大統領選を前にしたポジション調整が続きやすいものと考えられます。

一方で、中央銀行の強力な金融緩和政策が相場を下支えする構図に変わりはなく、米国での追加経済対策もいずれは成立が見込まれることから、市場の調整も限定的なものに留まるものと思われ、株価はレンジ圏でもみ合う展開を想定しています。

## (ご参考)今後の主要イベント

日本	米国	欧州
10/28-29: 日銀政策決定会合	11/3: 米大統領選投票開票 11/4-5: FOMC	10/29: ECB理事会

出所: Bloomberg